



厚生労働省の統計不正問題が発端となり、国の各府省庁が56の基幹統計を点検した結果、23統計でも不適切な処理があったことは驚くべきことであり、極めて憂慮すべきことであります。国民の統計に対する信頼を取り戻すためにも、政府は真摯に対応して欲しいと思います。

一方で、昨年春に、統計調査功績で藍綬褒章を受章された本市の森永ヒロミさんは、平成3年から29年までの間に、家計調査員23回、工業統計調査員20回、商業統計調査員8回、事務所・企業統計調査員7回、住宅・土地統計調査員5回、国勢調査員2回、その他統計調査員12回、合計77回も統計調査員として調査にあられたとお聞きしています。また、本市には登録調査員の方が162人おられ、この中には、従事年数が最高40年、従事回数103回という方もいらっしゃるようです。この統計調査員の方のご苦労は、依頼、訪問、説明、聞き取り、整理、集計、報告などその作業たるや、大変なものだとお聞きしています。

このように、統計調査員の方々地地道に、まじめに、苦勞して集められたデータが、所管する国の部署で、ずさん

に取り扱われていたことは「何をか言わんや」であります。国の職員は統計の重要性を十分に認識し、今後このようなことが決してないようにしていただきたいと思うと同時に、私ども地方自治体職員もこのことを「対岸の火事」と思わずに、統計の重要性を改めて認識しなければならないと思います。

ところで、統計といえば、本市の観光統計の速報値によると、平成30年の観光客数は約600万人となり、前年比101.9%となりましたが、宿泊客は約166万人で、前年比99.3%となり、少し下回る結果になりました(速報値ですので、精査することで今後数値の修正があるかもしれません)。

また、市民1人当たりの課税所得は平成29年分で初めて300万円台にのり込みです。これまで約270万円前後で推移していましたが、ここ数年上向き傾向になりましたのは、市民の皆さまや企業経営者の努力のたまものであり、心から感謝の意を表しますとともにお労いを申し上げます。今後とも市民所得の向上には、市民、企業、行政等が一体となって取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

佐世保市長 朝長 則男

佐世保市の未来と石木ダム



この1年間ご紹介してきたように、佐世保市には地勢的に大きな河川や地下水がなく、現存するダムも小規模なものしかないので、過去に幾度も給水制限の実施等に陥っており、その都度、日常生活だけでなく地域経済にも大きな影を落としてきました。水源確保の方策は、下の原ダムの嵩上げや地下水開発など、実現可能な方策は既に実行しており、他にも海水淡水化、他ダムの建設可能性調査など、考えられるあらゆる方法を検討してきましたが、石木ダム以外に現実的な方策がありません。

また、漏水対策等の水資源の有効活用についても最大限の取り組みを行っていますが、対策には限界があり、大都市圏並みの対策を実行したとしても、水源不足の解消には遠く及びません。

加えて、老朽化が進む既存ダムの改修工事等を行うためにも、水源確保の緊急性が年々増してきている状況にあります。

このようなさまざまな課題に対する唯一の抜本的対策である石木ダムは佐世保市の不足する水源を必要最小限度で確保する計画で、これまでに建設予定地住民の約8割の方々に苦渋の決断の上でご協力をいただき、工事が進められています。

水は市民の皆さまの生活に欠かせないものであるとともに、企業誘致や観光振興などで外から人を呼び、働く場所をつくり、佐世保のまちが元気であり続けるためにも必要なものです。子どもや孫が暮らす次の時代に、より良い佐世保のまちをつないでいくためにも、石木ダム建設にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

水道局総務課、水源対策・企画課 ☎ 24-1151

九十九島と音楽

アルカス SASEBO 館長 永元 太郎 さん



「西海讃歌」を演奏するアルカスドリームオーケストラと記念合唱団(2015年)

九十九島をモチーフにした音楽といえば「西海讃歌」が真っ先に思い浮かびます。日本を代表する作曲家で、九州にゆかりがある團伊玖磨氏の作品です。空いっぱい 空があるように 海いっぱい 海があるように 人よ 心いっぱい 美しい心をもって この空を この海を この土を 愛そう 平戸市出身の作詞家・藤浦洸氏のこの詩に弓張岳で出会った團氏は作曲を依頼した富永雄幸氏と固い握手を交わしたといます。西海国立公園指定15周年を記念し、前年の1969年に「西海讃歌」は誕生し、2001年のアルカス SASEBO のこけら落としの際には團氏の指揮により演奏されました。

西海国立公園指定50周年を記念した「九十九詩人」はアルカスを会場として開催されているさせぼ夢大学が作詞家・阿久悠氏と作曲家でピアニストの羽田健太郎氏に依頼し、2005年に制作されました。

そして、指定60周年を迎えた2015年からアルカスでは「アルカス九十九島音楽祭」を開催しています。この音楽祭は、九十九島にちなんだテーマを設け、市民が中心となり、演奏などを披露する夏の一大イベントとなっています。音楽祭の中では、アルカス SASEBO ジュニアオーケストラが毎年、会場の皆さんと一緒に「九十九詩人」を演奏しており、今では全員が口ずさめる愛唱歌となっています。

壮大なオーケストラと合唱のための「西海讃歌」と優しさの「九十九詩人」。この二つの宝がアルカスという船に乗り、世代を超えて永く歌い継がれ、美しい自然を愛する心が全ての人に宿り続けることを切に願っています。

観光課 ☎ 24-1111

徳育通信 85 聞いて「徳」する話 46 相手の気持ちを受け入れる心のスペースを

日常生活をしていると、どうしても直面してしまうのが「怒る」ことです。怒るとは、辞書によると「不満、不快なことがあって、我慢できない気持ちを表す」という意味を持っています。

人間同士の関わりの中でどうしても折り合いがつかないことがあり、怒ってしまいます。かく言う私も、ちょっとしたことで「気に食わない」「むかつく」などと感じ、怒ることが多々あります。しかし、それは自分の価値観に合わないから我慢できずに怒るといったものがほとんどのような気がします。

我慢できないことは往々にしてあると思います。でも、その気持ちをほんの少しだけ抑えて、相手の気持ちを受け入れる心のスペースを確保できれば、もっと人のことが分かり、相手のことも理解できるのかなと思います。

私は考えながら自省するばかりですが、これからは怒ってばかりではなく、まずは相手のために心のスペースを空けてあげて、自分の家族や職場の人、地域の人たちにもこの気持ちを持って接していき、私の心にも少しだけ徳を芽吹かせたいと思います。

(匿名)

人の動き (2月1日 現在)

- 総人口 248,912人 (前月比 -351人)
男性 117,933人 (-166人) 女性 130,979人 (-185人)
- 世帯数 105,371世帯 (前月比 -119世帯)
- 1月中の動き
転入 413人、転出 595人 出生 186人、死亡 355人

広報番組



させぼ市政だより
キラっ都させぼ

YouTube版



プレゼント応募

